

「異分野融合による方法的革新を目指した人文・社会科学研究推進事業」
研究成果報告書

研究テーマ（領域）名		「日本の環境思想と地球環境問題 - 人文知からの未来への提言」		
研究総括	所属機関	大学共同利用法人 人間文化研究機構 総合地球環境学研究所		
	部局	研究推進戦略センター		
	役職	教授	氏名	秋道智彌
委託研究費		単位：千円		
平成21年度		平成22年度		平成23年度
6,900		7,700		7,900

研究の概要
<p>本研究では、日本を中心としたアジア地域の環境思想を人文・社会科学分野と環境問題に関連する自然系分野とを融合した研究を実施することを大きな目的とする。そのため、重層的に関連する以下の3テーマを研究内容として設定した。</p> <p>1．環境保全の思想と実践 歴史的な系譜と現代的位相：先史時代から現代まで、環境の開発と保全をめくりどのような思想的背景と実践がなされたかを検証する。とくに環境を利用するさいのアクセス権と制度の解明は日本社会における環境思想とその変容過程を明らかにする上で最も重要である。</p> <p>2．宗教・文化・歴史から環境思想の解明 - 人間と動植物の生命観の地平：環境との関わりを宗教的・儀礼的な規範と行為、環境の開発と保全に関する規範、イデオロギーに着目した分析をおこなう。とくに山川草木の思想の系譜、動植物の慰霊碑、供養、虫送りのもつ民俗的意義、生命観などを明らかにする。</p> <p>3．自然・生業・生態からの環境思想の解明 - 破壊と共生の自然観：人間による環境利用の実態に着目し、狩猟・漁撈・採集などの生業活動や農耕や畜産業のように栽培・家畜化された資源を利用する活動、闘牛・闘鶏・闘犬などの娯楽に関連した分野の分析をおこなう。</p> <p>以上の3課題は地域・歴史軸で相互に関連しており、統合的に分析することでこれまでの歴史学や文献史学の領域に新たな分析手法や視座を提供する。それとともに、今後の環境保全のあり方や自然の共有思想に大きな影響を与えることが期待され、ひいては日本的あるいはアジア的な環境思想の核としての生命観を明らかにすることが大きな達成点となる。</p> <p>具体的な研究は日本及びアジア地域（中国、インドネシア、台湾、韓国）における現地調査と研究会を中心に構成し、とくに若手研究者の参画と研究会での発表・討論を介してその育成に努めた。日本各地での調査は多地域におよび、原資料の発掘と収集に努めた。</p> <p>研究が3年とかぎられていることを勘案し、2年度目から最終的な出版内容に収斂した研究発表を要請した。人文知と科学知との新たな学的融合を産み出すことを大きなねらいとした。</p> <p>研究途上の平成23年3月東日本大震災が発生した。大震災は環境思想の研究にとり大きなインパクトとなり、最終年度の平成23年度に本研究との関わり合いについて議論をおこなった。その過程で環境思想の基層を探る本研究に災害の意義を盛り込む視点が共有されたことで、全体のまとまりは非常によくなった。また、若手研究者中心に単行本を刊行する企画も大きく前進し、結果として2冊の研究成果本を刊行することが実現した。</p>